



Information Letter

July, 2021 No.2

〒170-0003
東京都豊島区駒込 1-43-9
(一財)口腔保健協会内
Phone:03-3947-8891
Fax:03-3947-8341
E-mail:gakkai11@kokuhoken.or.jp

公益社団法人日本矯正歯科学会会報
ホームページ:<http://www.jos.gr.jp/>

| 目次 |

広告可能な矯正歯科専門医制度の実現と第80回記念学術大会・第5回国際会議の成功を目指して……………1
第80回日本矯正歯科学会学術大会&第5回国際会議のご案内……………2

TOPIC 「ホームページの見方・使い方」のマニュアルを作成しました……………4
委員会だより……………4
日本歯科矯正器材協議会より……………12

広告可能な矯正歯科専門医制度の実現と第80回記念学術大会・第5回国際会議の成功を目指して

公益社団法人日本矯正歯科学会
理事長 森山 啓司

新型コロナウイルス感染症が世界で猛威をふるい始めてから、早1年半が経過しました。しかし、いまだ終息の兆しが見えず、社会生活にも大きな影響が生じてきています。会員の皆様におかれましても、臨床、教育、研究などのあらゆる活動において様々な制限が加わり、新しい日常への適応を余儀なくされていることと拝察いたします。人類がこの苦境を1日も早く乗り越え、人々が安心して健康に暮らせるような社会を取り戻せるよう切に願うばかりです。

さて、わが国の矯正歯科界にとりまして長年の課題となっていた「国が広告可能と認める矯正歯科専門医制度」の実現への取り組みに関しましては、前号のJOS Information Letterを通じて、日本正歯科専門医機関による第1回統一矯正歯科専門医審査・試験が実施(2020年10月4日~8日)されたことをご報告申し上げたところですが、そこで今回は、まず矯正歯科専門医制度に関するその後の経過につきまして、歯科全般の専門医制度改革の状況と合わせてご説明させていただきます。

歯科専門医制度の審査・認証を担う第三者機関設置の必要性は、かねてから厚生労働省内の「歯科医師の資質向上等に関する検討会—歯科医療の専門性に関するワーキンググループ—」において議論されてきました。これを受けて2018年4月に設立されたのが、(一社)日本歯

科専門医機構(以下、機構と略す)と呼ばれる組織です。機構は、歯科専門医の基本理念として、①プロフェッショナルオートノミーに基づいた歯科専門医(および歯科医療従事者)の質を保証・維持できる制度であること、②国民に信頼され、受診先の選択に際しよい指標となる制度であること、③歯科専門医の資格が国民に広く認知される制度であること、④中長期的な歯科医療の向上に貢献し、国際的にも認知される制度であること、⑤地域医療に十分配慮した制度であること、の5項目を掲げ、わが国の歯科専門医制度の認証業務を一括して担うことになりました。また今般、日本歯科麻酔学会、日本歯周病学会、日本小児歯科学会、日本歯科放射線学会、ならびに、日本口腔外科学会の5学会(国が認めた「広告可能な専門医制度」を有する)に対して、初めて「歯科専門医制度運用審査」の認証を行うとともに、矯正歯科を含めた新たな5領域に対する専門医制度審査に向けての検討を開始しました。本学会は、機構との間で現在までに9回(2021年6月現在)にわたる認証開始に向けた協議を行って参りました。しかし、矯正歯科が目指す新たな専門医制度は、①異なる3団体がそれぞれ独自に運営してきた制度を廃止して新たに統合整備するものであること、②国が広告可能と認めていない専門医制度に対して機構が審査・認証を行うのは初めてとなること、③医科、

歯科を通じて自費診療を中心とした専門医制度が広告可能と認められた例はないこと、といった点で前例のないケースであることから、当初の予想に比べて調整にやや時間を要しております。本学会としましては、関係各所と緊密に連携しながら、将来に禍根を残さぬよう慎重かつ適切に作業を進め、一日も早く「国が広告可能と認める矯正歯科専門医制度」が実現するよう総力を挙げて取り組んでいく所存です。何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、もう一つの話題ですが、第80回日本矯正歯科学会学術大会・第5回国際会議が、横 宏太郎大会長(昭和大学歯学部歯科矯正学講座 主任教授)のもと、2021年11月3日～5日の日程でパシフィコ横浜とオンラインのハイブリッド形式で開催される予定となっています。本大会は『望まれる矯正歯科の未来』をメインテーマとして、教育講演、特別講演、シンポジウム、ラウンド・テーブル・ディスカッション(RTD)、臨床セミナー、スタッ

フ&ドクターセミナー、学術展示/症例展示、生涯研修セミナー、サテライトセミナーなど多彩なプログラムから構成されています。第5回国際会議 記念シンポジウムでは、近年社会的関心の高まる「アライナー矯正」についてグローバルな視点で意見交換が行われます。また、JOSフォーラムでは、矯正歯科専門医制度を含めたタイムリーな情報を提供させていただく予定です。なお、大会期間中には、日本学術会議歯学委員会・臨床系歯学分科会主催、日本矯正歯科学会共催シンポジウム「進化・発生・メカニカルストレスから探る顎顔面形成・維持機構最先端」を企画し、一般公開の形式で口腔科学研究の最先端の情報を発信させていただく予定です。第80回という末広がりで縁起のよい数字の記念大会が、矯正歯科の明るい未来を創造していくための、有意義なディスカッションの場となることを期待しています。

皆様奮ってご参加いただきますよう心よりお待ちしております。

第80回日本矯正歯科学会学術大会 & 第5回国際会議のご案内

メインテーマ 「望まれる矯正歯科の未来」

日時：2021年11月3日(水・祝)～5日(金)
会場：パシフィコ横浜+WEB

第80回学術大会の概要

本大会では、大会前の10月1日(金)～11月30日(火)にWEBにて、一般市民を対象とする市民公開講座『安心安全な矯正歯科治療とは? ～未来をきめるのはあなた～』が開催されます。

また、本大会はコロナウィルス感染症2019の拡大状況に鑑み、パシフィコ横浜+WEBのハイブリッド開催を基本方針として準備を進めています。

7月1日(木)より事前登録(第一次募集)が開始され、10月1日(金)が登録締切となります。コロナウィルス感染症2019対策のため大会当日の会場での受付は行わない予定です。つきましては、現地来場を希望する場合は、下記より事前登録(第一次募集)によりご登録ください。

<http://square.umin.ac.jp/jos-am/japanese/papers.html>

なお、事前登録(第一次募集)以外に、10月7日(木)より第二次募集を開始いたします。こちらは感染症対策のため当日登録として扱い、Web視聴のみ(現地来場は不可)の登録となります。第一次募集で登録された方以外が現地に来られた場合、来場をお断りすることがあります。予め、ご了承ください。コロナ禍での開催となりますが、多くの学会員の皆様に参加していただき、実りのある会となるよう鋭意準備しておりますので、ご協力とご理解のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

学術大会の講演者および講演テーマについて、以下に概要を紹介いたします。(敬称略)

11月3日(水・祝)

生涯研修セミナー：『ゲノム医療は矯正歯科治療にどのように貢献することができるのか?』

黒坂 寛 (大阪大学歯学部附属病院 矯正科 講師)

山口徹太郎 (神奈川歯科大学 歯学部歯科矯正学講座 教授)

サテライトセミナー 1：『矯正歯科に求めること～学際領域から～』

黄川田 徹 (鼻のクリニック東京 理事長)

小林 正治 (新潟大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面再建学講座 組織再建口腔外科学分野 教授)

渡辺 頼勝 (東京警察病院 形成外科・美容外科 主任医長)

サテライトセミナー 2：『再生医療の未来』

星 和人 (東京大学大学院医学系研究科 外科学専攻 感覚・運動機能医学講座 口腔顎顔面外科学 教授)

大野 充昭 (岡山大学大学院医歯薬総合研究科 分子医化学分野 准教授)

岩田 隆紀 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 歯周病学分野 教授)

11月4日(木)

教育講演：『歯科における感染予防セミナー(コロナウイルス感染症対策など)』

二木 芳人 (昭和大学医学部 内科学講座臨床感染症学部門 客員教授)

特別講演：『矯正歯科治療の基本理念』

与五沢文夫 (よごさわ歯科矯正 医院長)

第5回国際会議 記念シンポジウム：『アライナー矯正の光と影』

Tarek Hessin El-Biay (Professor, University of Alberta)

Brent Dee Bankhead (Assistant Professor and Chief Clinical Advisor, St Louis University and Dentsply-Sirona)

James Mah (Professor and Director, The Advanced Education Program in Orthodontics, University of Nevada, Las Vegas)

第80回大会 記念シンポジウム：『日本の矯正歯科の未来』

森山 啓司 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 歯学系専攻 顎顔面顎部機能再建学講座 顎顔面矯正学 教授)

齋藤 功 (新潟大学大学院医歯学総合研究科 歯科矯正学分野 教授)

榎 宏太郎 (昭和大学歯学部 歯科矯正学講座 教授)

シンポジウム：『矯正歯科における先進的技術の可能性』

鄭 雄一 (東京大学 教授/神奈川県立保健福祉大学 研究科長)

馬場 理香 ((株)日立製作所 研究開発グループ 主任研究員, 博士)

河野 典厚 (厚生労働省医薬・生活衛生局 医療機器審査管理課長)

11月5日(金)

日本学術会議歯学委員会・臨床系歯学分科会主催, 日本矯正歯科学会共催シンポジウム：『進化・発生・メカニカルストレスから探る顎顔面形成・維持機構最先端』

倉谷 滋 (日本学術会議連携会員, 理化学研究所開拓研究本部 倉谷形態進化研究室 主任研究員)

中島 友紀 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 分子情報伝達学分野 教授)

上岡 寛 (岡山大学学術研究院医歯薬学域 歯科矯正学分野 教授)

臨床セミナー：『全顎的治療における矯正歯科』

山崎 長郎 (原宿デンタルオフィス 院長)

岩田 光弘 (医療法人社団さくらデンタルクリニック 理事長)

綿引 淳一 (東京日本橋 AQUA 歯科・矯正歯科 包括 CLINIC 院長)

このほかにも、スタッフ&ドクターセミナー、指導者講習会、JOS フォーラム、RTD、企業プレゼンテーションなどが企画されています。本大会のビジュアルデザインには、「未知の領域に果敢に挑戦し、開拓してきた先人の意志を引き継ぎ、全ての会員が同じ船に乗るチームとして協力し合い、夢を持ち続けながらさらなる未来へ進もう」という願いを込めております。本大会におきましては、新型コロナウイルス感染症に対する対応を十分に考慮して、皆様が安全にご参加いただけるための試みも予定しております。多くの皆様のご参加をお待ち申し上げております。



第80回日本矯正歯科学会学術大会&第5回国際会議 大会長

昭和大学歯学部歯科矯正学講座 榎 宏太郎

TOPIC 「ホームページの見方・使い方」の マニュアルを作成しました

日本矯正歯科学会ホームページが本年1月にリニューアルされました。今回のリニューアルのポイントはレスポンス化を行ったことです。これは患者さんを含む一般の方々の70%以上がスマートフォンで閲覧されていることに基づきます。

この度、リニューアルされた「ホームページの見方・使い方」についてのマニュアルを会員ページ、トップページにPDFで掲載しましたのでご覧ください。なお、会員ページのユーザー名は「JOS」パスワードは「JOS2021」です。

(常務理事 延島ひろみ)



委員会だより

総務委員会

委員長 齋藤 功

2021年度第1回定時社員総会は2021年3月1日(月)に開催いたしました。COVID-19の拡大傾向が継続しておりましたので、人数を制限したKKRホテル10階 瑞宝の間における現地、およびZoomによる参加のハイブリッド形式として行われました。社員(代議員)総数204名中179名の方々にご出席(本人あるいは委任状)をいただき、総会は成立、実施されました。

冒頭で森山啓司理事長よりご挨拶をいただいた後、須田直人議長(第一部会)、上保 基副議長(第二部会)の下で議事が開始されました。会務報告および各委員会からの報告終了後、「その他」の報告として、12月9日に開催された日本矯正歯科専門医機関暫定運営委員会において、昨年10月初旬に実施した矯正歯科統一専門医試験の審査結果について審議されたこと、ならびに学会設立100周年記念事業が計画されタスクフォースが設置されたことについて説明がなされました。

次に議題に入り、第79回日本矯正歯科学会学術大会・第12回APOCと併催した9th IOC 2020の実施報告あるいはバーチャル開催への変更に伴う事業活動収支の詳細を含む「2020年度事業報告」ならびに「同決算報告」について、それぞれ総務担当常務理事の齋藤 功と五十嵐一吉財務担当常務理事から説明がなされ、いずれについても審議のうえ承認されました。協議は特になかったため、新井一仁常務理事より閉会が宣言され総会が終了しまし

た。

2021年度第2回社員総会につきましては、パシフィコ横浜で開催予定の第80回学術大会&第5回国際会議初日の11月3日(水)に行う予定としておりますが、通常形式で実施できるか否かについてはCOVID-19の動向によりますので学会ホームページにて適宜お知らせすることとしています。代議員の皆様方におかれましてはご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

会員状況(2021年6月15日現在)

正会員：6,907名
 名誉会員：26名
 賛助会員：49社
 準会員：187名(医師・研究者8名、国際会員94名、デ
 ンタルスタッフ会員65名、学生会員11名、
 購読会員9名)
 会員総数：7,169名

財務委員会

委員長 五十嵐一吉

■ 2020年度決算について

3月1日に行われた社員総会において2020年度決算案を上程し、審議の上ご承認いただきました。その主な内容は、以下のようになります。

- 1) 9th IOCのバーチャル開催への開催様式の変更に伴い収入/支出ともに大きく減額となりましたが、

単年度の「事業活動収支差額」は約 ¥4,460,000 の黒字、また次期繰越収支差額は ¥160,723,844 となりました。

- 2) 「第9回国際矯正歯科会議 (9th IOC) 積立金 (¥90,000,000)」を全額取り崩し、その中の ¥6,782,106 を9th IOC 決算において収入として計上しました。
- 3) 「公益社団法人 日本矯正歯科学会創立 100 周年記念事業積立金」として上限額 ¥150,000,000 のうち、2020 年度に ¥90,000,000 を積み立てました。そのほとんどは上記の「第9回国際矯正歯科会議 (9th IOC) 積立金」の残金です。
- 4) 公益社団法人として決算上求められる条件である以下の3つをクリアしました。
 - ① 公益事業比率 (経常費用全体のうち、公益目的事業に係る経費の割合が 50% 以上でなければならない)
 - ② 収支相償 (公益目的事業の実施に要する適正な費用を償う額を超える収入を得てはならない = 公益目的事業において黒字であってはならない)
 - ③ 遊休財産額の保有の制限 (遊休財産額は当該事業年度における公益目的事業の実施に様要した費用の額を超えてはならない)

なお3月中に豊島税務署への決算書類の提出および内閣府への報告を行いました。その後9th IOCにおけるバーチャルでの商社展示に関するスポンサーシップ収入の取り扱いの変更に伴い、修正申告を行っています。この点については、11月に開催予定の社員総会にて改めて報告させていただきます。

会員の皆様には、期限内の会費の納入および公益社団法人としての適切な財務運営に対して、今後共ご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくごお願い申し上げます。

医療問題検討委員会

委員長 宮澤 健

医療問題検討委員会では、小児の不正咬合等の保険導入に関して Zoom を用いた勉強会を開催いたしました。今回からは、海外で矯正歯科治療の保険に関しての文献検索を進めると共に、国内においては、アンケート調査

を行うための準備に入っております。

さらに国内の広告などで多く認められるようになってきたアライナー矯正について、引き続き企業との面談等を行い、医療問題検討委員会としてのとりまとめを行っております。

今後とも医療問題検討委員会の活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

学術大会運営委員会

委員長 齋藤 功

2021年の年明け以降、本委員会は2月と5月に2回開催いたしました。変異株の出現により COVID-19 の拡大が未だ収束の兆しをみせておりませんでしたので、いずれも Zoom によるリモート形式で実施しました。

9th IOC 2020 と併催した第79回学術大会はバーチャル形式での開催となりました。同大会プログラムのうち、JOS セッションおよび生涯研修セミナーについては JOS が所掌し実施されました。前者においては Edgewise 治療に関わるテーマで海外演者3名の方に、後者では睡眠時無呼吸症についてのテーマで国内演者2名の方にそれぞれご講演いただき多くの会員の方々からご視聴いただきました。

第80回日本矯正歯科学会学術大会 & 第5回国際会議は、「望まれる矯正歯科の未来」をテーマに榎 宏太郎大会長の下、会期を2021年11月3日(水)~5日(金)として行われます。COVID-19の拡大状況に鑑み、ハイブリッド開催を基本方針として準備を進めています。医療関係者へのワクチン接種は徐々に進んでおりますので、可能な限り現地での開催を目指していますが、再拡大が顕著となった場合には完全 Web 開催へと移行する予定としています。実施形式の検討状況については、参加登録が開始される7月1日から大会ホームページで随時お知らせすることとし、大会1カ月前までには最終決定する予定です。商社展示についても、Web 展示を視野に入れながら現地で展示予定として準備いただいています。なお、どのような開催形式になったとしても残念ながら会員懇親会是不開催といたします。

開催形式は不確定であるものの、学術プログラムにつきましては魅力ある充実した内容を企画いただきました。教育講演では昭和大学客員教授の二木芳人先生に、特別講演ではよごさわ歯科矯正医院長の与五沢文夫先生

にそれぞれご講演いただきます。その他、第5回国際会議シンポジウム、第80回大会記念シンポジウム、臨床セミナー、スタッフ&ドクターセミナー他盛りだくさんの内容で準備が進められています。どうぞご期待ください。

第81回日本矯正歯科学会学術大会は、大阪歯科大学松本尚之先生に大会長をお務めいただき、2022年10月5日(水)～7日(金)に大阪国際会議場を中心に開催予定です。テーマ案および会場使用計画案の提示がなされ、COVID-19の収束を期待しつつ企画・準備が本格化しています。

本委員会では、ウイズコロナ・ポストコロナにも考慮しながら、委員の皆様方と学術大会の在り方についてさらに議論を深めていく所存です。会員各位におかれましては、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

RTD(Round Table Discussion)委員会

委員長 延島ひろみ

第80回日本矯正歯科学会学術大会RTDは、新型コロナウイルス感染症予防の観点より昨年に引き続きオンライン会議システムを活用し、11月4日(木)に開催いたします。モデレーターの先生方のみパシフィコ横浜にお集まりいただき、参加者はオンラインシステムで大会開催形態に応じて会場近辺、職場あるいはご自宅からご参加いただくこととなります。

モデレーターからご応募いただきました事前抄録の査読をRTD委員会および学術委員会で行い、7テーブルのモデレーターが決定されました。今年も歯科衛生士、歯科技工士関連のテーブルを設けましたので、歯科衛生士、歯科技工士の方々にもぜひご参加いただき、充実した時間をお過ごしいただきたいと思っております。

RTDは各モデレーターの取り上げたテーマについて、参加者が自由に楽しく討論できる意見交換の場であり、会員相互の出会いの場でもあります。大会ホームページにタイトルおよび抄録が掲載されており、RTDへの参加募集を開始しております。各テーブルの定員がモデレーターを含めて15名で、先着順ですので早めのご応募をお願いします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

編集委員会

委員長 宮脇 正一

■学会誌名の変更について

2014年から編集委員長を担当させていただいております宮脇と申します。会員の皆様には日頃よりOrthodontic Waves (ODW)へのご投稿ならびに査読に対してご協力を賜り、大変感謝しております。

さて、現在、英文の学会誌(ODW)のMEDLINE再掲載とインパクトファクター獲得に向けて活動しております。また、それに伴い、わかりやすい学会誌名にすることを検討し、編集委員会や理事会で何度も議論を重ねるとともに、これまで2回にわたり、会員の皆様からパブリックコメントを募りました。その結果、他の案も検討されましたが、最終的に、**Clinical and Investigative Orthodontics (CIO)**に決まりました。この名称は、現在の本誌の内容を表しかつ医科の国際誌でも一般的に用いられている名称を含んでおり、2022年の81巻の1号から用いる予定ですので、どうぞよろしく願いいたします。

次に、MEDLINE再掲載とインパクトファクター獲得に向けた対策として、現在、掲載論文数と被引用回数の増加を目指しております。そこで、昨年成功裡に閉幕した9th IOCで講演されました海外の先生方に総説論文を投稿していただく予定です。

このように、今後も、MEDLINE再掲載とインパクトファクター獲得に向けて引き続き改善を図る予定ですが、現在、世界的なCOVID-19の感染等の問題により、投稿論文数が減ってきておりますので、奮って投稿していただきますよう、ご協力何卒よろしく願いいたします。

奨励賞選考委員会

委員長 五十嵐 薫

昨年度より学術奨励賞選考委員会を担当しております。本委員会は、学術理事、編集理事を含めた委員4名によって構成されています。日本矯正歯科学会学術奨励賞は、「歯科矯正学分野において、学術上または臨床上に優れた業績が認められ、かつ将来に大きな展望が期待できる若手研究者」に授与されます。昨年度は4名の優秀な研究者が受賞されました。

本年度の審査対象論文は、2020年12月末日までに公

表された論文で、学会ホームページならびにOrthodontic Waves Japanese edition 79巻2号にてご案内をさせていただきました。その結果、2021年3月31日の締め切りまでに7名の応募がありました。誠にありがとうございました。現在、厳正かつ公平に審査を進めているところでございます。

来年も多数の応募をお待ちしております。なお、本賞にはいくつか条件がございますので、応募の際は日本矯正歯科学会表彰規程および同細則を熟読されますようお願い申し上げます。

論文賞選考委員会

委員長 宮脇 正一

編集委員長に加え、論文賞選考委員長を担当させていただきます宮脇と申します。

さて、日本矯正歯科学会論文賞は、学会誌であるOrthodontic Waves(英文誌)とOrthodontic Waves-Japanese Edition(和文誌)に掲載された論文のうち、学術的または臨床的に優れた論文に授与されます。

2021年度の第5回論文賞には6編の応募があり、今後、論文賞選考委員4名により厳正に審査し、今年は社員総会等で発表と表彰を行う予定です。

そして、2021年1月から12月までに掲載された論文が対象となっております第6回論文賞の予定につきましては、応募要項を当学会のホームページ等でお知らせし、2022年の1~3月に公募する予定です。今回の応募論文数は6編と少なかったため、来年は、奮って応募していただきますようよろしくお願いいたします。

また、来年から学会誌名が、Orthodontic Waves からClinical and Investigative Orthodontics (CIO) に変更されます。多くの論文をCIOとCIO-Japanese Editionに掲載していただきますよう、よろしくお願いいたします。

認定医委員会

委員長 谷本幸太郎

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの学会において開催方式の変更を余儀なくされている状況です。2021年11月3日~5日に開催予定の第80回日本矯正歯科学会学術大会の開催時の感染拡大状況や政府の対応状況も、現時点では予測が困難な状況にありま

す。また、今年度の地区学会大会におきましては、現地開催を中止せざるを得ない事態もすでに生じており、予定されていた研修ポイントの取得、および更新のための発表機会が減少しております。そのような状況に鑑み、昨年度実施された認定医および指導医更新に対する1年延長の特例措置を今年度も適用することとなりました。学会HP特例措置申請フォームからお申し込みいただけます。なお、本措置は所属地区学会にかかわらず一律に行われます。

1. 認定医新規・更新申請について

2021年度の新規1次審査および再審査・再取得1次審査の申請の締め切りは、2021年6月30日(必着)となっております。すでに締め切っております。今回は締め切り期日の延長は行いませんので、ご注意ください。上記申請の2次審査(2提出症例の審査および口頭試問)につきましては大会会場での審査は中止し、昨年度に準じた書面および模型または模型写真等の提出による審査となります。

また、認定医更新につきましては、例年通り書類審査を行います。新型コロナウイルス感染症に伴う大会中止や、「認定医更新のための症例報告」の中止等によりポイントや業績不足となり、更新が困難となった場合には、特例措置申請のご検討をお願いいたします。

2. 指導医新規・更新申請について

例年通り書類審査を行います。2021年度の新規・更新申請の締め切りは、2021年6月30日(必着)となっております。すでに締め切りました。

また、指導医更新につきましては、新型コロナウイルス感染症に伴う大会中止等により更新が困難となった場合には、特例措置申請のご検討をお願いいたします。

今後も予断を許さない状況が続くことが予想され、会員の皆様にご負担をおかけいたしますが、ご協力のほどお願い申し上げます。

臨床指導医(旧専門医)委員会

委員長 久保田雅人

昨年度の臨床指導医(旧専門医)新規審査はコロナ禍のため新規申請21名(積み上げを含む)の1次審査(書類・写真審査)までを行いました。2020年日矯大会がWeb開催となったため、昨年度の2次審査以降は中止といた

しました。

今年度は6月の時点では日矯大会の現地での開催は未定ですが、当委員会では昨年度に申請していただいた新規申請者と、すでに申請を行い積み上げ審査中の先生の審査を実施する予定です。例年通り7月上旬に新規(積み上げ)申請の2次審査を行い、合格症例は2021日矯大会での3次審査および症例の展示を行います。

また、昨年度は中止した更新のための症例審査は、今年は再開の予定です(新型コロナウイルス感染症の状況によっては変更の可能性もございます)。

今年度に更新申請が期限となる先生方は、1または3症例以上の審査合格症例が必要となりますので、審査症例が整っているかご注意ください。

卒後教育委員会・研修機関検討委員会

委員長 新井 一仁

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い活動が変更されております。会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

1. 生涯研修セミナー

第80回日本矯正歯科学会学術大会・第5回国際会議

日時：2021年11月3日(水)15:00~16:30

会場：パシフィコ横浜 国立大ホール

「ゲノム医療は矯正歯科治療にどのように貢献することができるのか？」

講演者：黒坂 寛(大阪大学歯学部附属病院 矯正科 講師)

山口徹太郎(神奈川歯科大学 歯学部歯科矯正学講座 主任教授)

座長：佐藤和朗副委員長, 上岡 寛委員

2. 指導者講習会

日時：2021年11月3日(水)15:00~16:30

会場：パシフィコ横浜 メインホール

講演者：管理指導医委員会 佐藤嘉晃委員長

編集委員会 宮脇正一委員長

認定医委員会 谷本幸太郎委員長

卒後教育委員会 兼任：研修機関検討委員会

3. 研修機関

学会ホームページの研修機関一覧 (<https://www.jos.gr.jp/member/certification/facilities>) で以下の変更がありました。①「基本研修機関」変更前：代表者 ⇒ 変更後：管理指導医、②「臨床研修機関」変更前：代表者 ⇒ 変更

後：指導者(指導者には臨床指導医と指導医が含まれる)

本年も研修機関から昨年度の実態報告と臨床研修機関の新規申請が届いており審査が行われております。また、実地調査は今年度も延期される見込みです。

診療ガイドライン策定委員会

委員長 山城 隆

診療ガイドライン策定委員会は、委員会や理事会におけるご意見を受け“開咬”のガイドラインを策定しているところです。あいにくのコロナ渦のなかにおいて対面での会議は行わず、Web会議で議論を進めているところです。開咬は日常の臨床において私たちを悩ます大きな課題です。これまでの治療を改めて検討しなおすとともに、比較的新しいTADを応用した治療にも焦点を当てております。

また、前委員会からの課題であります矯正歯科治療における標準治療指針についても、引き続き検討を重ねております。これらの策定を通じて先生方の日々の診療に少しでもお役に立てるよう、委員会メンバーは総力を挙げて取り組みます。会員の皆様のご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくご願ひ申し上げます。

国内渉外委員会

委員長 野村 泰世

1. 日本矯正歯科学会のホームページ関連

日本矯正歯科学会では、HPを通じて常時社会に対して情報を配信しております。

2. 矯正歯科治療 Q&A

一般市民から矯正歯科治療に関する質問がHPを通じて寄せられています。昨年度は160件、本年度は3月から6月22日現在までで69件と増加傾向にあります。内容は、矯正歯科治療の転医にまつわる手続き、清算返金の問い合わせが多くみられます。本学会会員の先生におかれましては、転医あるいは中止の際には会員HPに掲載されている本学会倫理規程の「矯正歯科患者の転医に際しての矯正費用の返金に関する指針」を参考になさってください。なお、一般ページにこの「指針」は公開予定です。

また、マウスピース型矯正装置に関する質問も急に増えてきております。本会からの「アライナー型矯正装置に

よる治療指針「マウスピース型矯正装置による治療に関する見解」をご一読ください。一般公開されていることを前提にご対応いただきますようお願いいたします。

さらに、「認定医・指導医・臨床指導医」の資格についての問い合わせも多く、ご自身の名刺への記載、オフィスのHPへの掲載も含めて、更新などの手続きを確実にを行うことをお勧めいたします。

3. 啓発・広報活動用ポスターの作成

2021年度の啓発・広報活動のテーマは、「安心安全の矯正歯科治療とは？ —未来を決めるのはあなた—」です。ポスター配布については、例年通り学術大会の抄録と一緒に発送する予定です。なお、HPにもこのポスターは掲載され、折り目のないポスターを手に入れることができますので、ご活用いただきますようお願いいたします。本事業は、日本歯科矯正器材協議会にご協力をいただいております。

4. 市民公開講座

第80回日本矯正歯科学会学術大会の市民公開講座は、10月31日(日)に予定されておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、中止といたしました。そこで、WEB配信として大会HPに10月1日から掲載予定です。テーマは「安心安全の矯正歯科治療とは？ —未来を決めるのはあなた—」として、昭和大学歯学部歯科矯正学講座教授 榎 宏太郎先生、アリビオ矯正歯科クリニック院長 久保田雅人先生が講師となり、配信いたします。新しい試みですので、ぜひご視聴いただければ幸いです。

国際渉外委員会

委員長 新井 一仁

1. 一般社団法人日本歯科医学会連合の国際活動委員会フォーラム「歯学領域における国際的人材育成と学会活動」(開催日時:2021年1月28日(木)13:00~15:00)におきまして、本学会の国際交流活動を報告いたしました。

2. 世界矯正歯科医連盟(World Federation Orthodontists, WFO)より、教育に関わる委員会を立ち上げるにあたり、本学会が認定する教育機関の情報を提出するよう要請があり対応いたしました。

■海外の学術大会(予定)

- Korean Association of Orthodontists(KAO)

学術大会: The joint conference of the 54th Annual Congress of the Korean Association of Orthodontists (KAO) and the 12th World Implant Orthodontic Congress (WIOC)

会期: October 14-17, 2021

会場: COEX, Seoul, South Korea

- Taiwan Association of Orthodontists(TAO)

学術大会: 34th Annual Meeting

会期: December 4-5, 2021

会場: Kaohsiung, Taiwan

- American Association of Orthodontists(AAO)

学術大会: Annual Session 2022

会期: May 21-24, 2022

会場: Miami Beach, Florida

いずれも変更の可能性がございますのでお含みおきください。

管理指導医委員会

委員長 佐藤 嘉晃

新型コロナウイルスのワクチン接種が医療者や高齢者等を中心に開始され、皆様も少しご安心なさっている時期かと思えます。一方で、変異株の影響等も含め、感染収束にはまだまだ時間がかかると思われ、研究、教育、診療等、かなりの制限の下での活動が強いられているのも事実と思えます。心よりお見舞い申し上げます。

まずは、報告事項です。COVID-19拡大に伴い、日本学術会議歯学委員会と日本歯科医学会が共同で「新型コロナウイルス感染症に関連した口腔の諸問題と対応を整理し、国民や他分野に発信すること」を目的に「新型コロナウイルス感染症に関する調査」を行うことになり、協力依頼が3月に日本歯科医学会の専門分科会である日本矯正歯科学会にもございました。管理指導医委員会として基本的な事項について回答させていただいております。今後日本学術会議と日本歯科医学会で合同ワーキング等が行われ口腔の諸問題と対応が整理・発出されることになっているようですので、HP等でご確認ください。

COVID-19への対応を含め、すべての会員の皆様からのご助言やご支援をいただきながら委員会の運営を行っていきたく思っております。今後ともご指導のほど、どうぞよろしくお願いたします。末筆になりますが皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。11月3日に皆様にお会いできることを楽しみにしております。

認定医・専門医制度改革検討委員会

委員長 居波 徹

■新しい統一専門医制度の進捗状況

社会に信頼される矯正歯科治療の基盤となる矯正歯科専門医制度を確立し、国民の健康福祉の向上に寄与することを目的として2019年8月15日に、日本矯正歯科専門医機関 (<http://orthod-specialist.jp> 参照) が設立され、新たな「矯正歯科専門医(仮称)」が認定される予定でした。そのため、従来の日本矯正歯科学会の「専門医」は「臨床指導医」へと名称が変更されました。さらに、矯正歯科専門医制度に関する3団体(公益社団法人 日本矯正歯科学会、一般社団法人 日本矯正歯科協会、特定非営利活動法人 日本成人矯正歯科学会)はそれぞれの団体の矯正歯科専門医制度を廃止にしました。

さて、2020年に実施しました第1回矯正歯科統一専門医試験受験者のお手元には、書類審査、症例審査、筆記試験に関する結果通知が送付されております。通知には「通過」と記載され、「合格」との記載はございませんが、その理由について説明させていただきます。

ご承知のように、2018年から日本の歯科専門医を取りまとめるために「一般社団法人 日本歯科専門医機構」という組織が発足し、日本歯科専門医機構の社員学会が認定した専門医の認証を行っております。2020年10月には、すでに広告可能な専門医制度を有していた歯科麻酔、口腔外科、歯周病、小児歯科、歯科放射線の5学会の専門医制度が新たに機構より認証されました。

現在、社員学会である日本矯正歯科学会(日本成人矯正歯科学会、日本矯正歯科協会は共に社員学会ではない)は「矯正歯科専門医(仮称)制度」について日本歯科専門医機構の認証を得るべく申請書を提出し、急ぎ協議を進めております。

そこで、経過と現状の説明をさせていただきます。

1. 統一専門医試験の申請状況について

第一回矯正歯科統一専門医試験(書類審査、ホームページ倫理審査、症例審査(課題5症例)および筆記試験)が昨年10月5日～8日、パシフィコ横浜にて実施されました。第一回統一専門医試験は、日本矯正歯科学会(日矯)、日本矯正歯科協会(JIO)、日本成人矯正歯科学会(成人)の三学会で2016年までにそれぞれの学会で専門医を取得された先生方を対象として実施され、新規申請者総数は317名でした。その中の41名(日矯:21名、JIO:10名、

成人:10名)は今回の症例審査を担当する審査委員で、3学会から推薦され2019年10月に相互症例審査(課題7症例)を通過した先生方でした。

2. 試験結果について

コロナ禍での試験となったため可能な限りの感染対策を講じて行われましたが、現地受験を控えた申請者が54名おりました。今年度の通過を目指すためには現地での筆記試験受験は必須でしたので対象者は263名(症例審査受験者224名、審査委員39名)となりました。

そのうち昨年末時点で書類審査、症例審査、筆記試験の全てを通過した申請者は237名でした。

1) 書類審査について

業績(提出された筆頭自著論文)が不十分との判断で数名の申請者が保留中です。ISSNを取得しており査読システムを持つ学術誌における自著筆頭論文掲載が必要です。

2) 筆記試験について

今回現地で受験したのは263名でした。筆記試験は日本矯正歯科専門医機関HPに掲載されている【矯正歯科統一専門医試験ガイドブック】の内容「感染対策、関連法令、医療広告ガイドライン、矯正歯科保険診療、医療面接、他科連携等」を出題範囲とし、マークシート形式と記述形式で行われました。

通過者248名、不通過者15名でした。なお筆記試験のみ不通過だった申請者は、次回の筆記試験を通過すれば通過として認定される予定です。

3) 症例審査について

症例審査については、コロナ対策でWEB受験を可能とし、WEB受験者40名、現地受験者224名合計264名(審査員症例審査(7症例提出)による41名を除く)が受験し、通過者は255名、不通過者9名でした。不通過者には、どの症例がどのような評価を受けたかは書面にて通知済みで、次回申請時に不通過症例を入れ替えて受験することが可能です(カテゴリーの重複は避ける)。

さて、現在日本歯科専門医機構との意見交換会を昨年の10月頃より9回行っております。このこと【日本歯科専門医認定機構の認証】について説明させていただきます。

歯科領域全体の専門医制度ワーキング・グループにて専門医制度認証を行う第三者的評価機構が必要との議論

を経て、2018年に「一般社団法人 日本歯科専門医機構」(以下、機構と略す)が設立されました。その後機構は、機構社員学会が認定した専門医制度の認証を開始し、すでに広告可能な専門医制度を有していた歯科麻酔、口腔外科、歯周病、小児歯科、歯科放射線の5学会の専門医制度が、新たに2020年に機構の認証を受けました。

「矯正歯科専門医(仮称)制度」についても機構社員学会の日本矯正歯科学会より機構に申請書類を提出しておりますが、3団体(日本矯正歯科学会、日本矯正歯科協会、日本成人矯正歯科学会)を取りまとめた専門医制度というはじめてのケースでもあり、現段階では機構の十分な理解を得るまでには至っておりません。

機構は歯科専門医制度整備指針(2019.5.17) https://jdsb.or.jp/pdf/shika_senmoni_seido_kihon_seibishishin.pdf を定め、特に研修を厳しくチェックする姿勢を鮮明にしておりますが、機構の社員ではない日本矯正歯科協会と日本成人矯正歯科学会の2学会会員の受験資格(十分な研修(基本+臨床)実績を担保できているか)について疑義を述べており、第一回矯正歯科統一専門医試験通過者全員を機構が専門医として認めるかどうかは不明な状況で、機構が研修実績を確認できないと判断した通過者については、そもそもの受験資格がないとの理由で認めない可能性があります。

現在、日本矯正歯科専門医機関を中心として、機構への資料提出、意見交換会での説明等を行い、機構の理解を得るべく努力をしております。このように、3団体を

取りまとめた専門医制度という初めてのケースでもあり、日本歯科専門医機構の掲げる高い基準をクリアして、機構の認証を受けた専門医制度を確立するためには、各団体の外形基準やそれぞれの基本研修・臨床研修内容等の審査を受けなければなりません。これには、まだしばらく時間を要するものと思われますので皆様のご理解をよろしくお願い申し上げます。

倫理・裁定委員会

委員長 五十嵐一吉

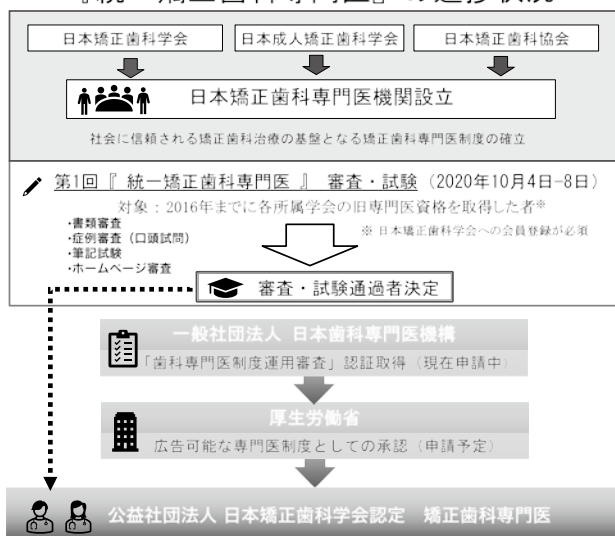
■「ホームページ倫理審査」について

会員の規範となる立場である臨床指導医(旧専門医)・認定医・指導医の更新(一部新規)申請において、申請者のホームページの内容を倫理・裁定委員会が審査し、ガイドラインに違反する内容や表記については修正を求め、修正が認められるまでは更新を保留とするという、いわゆる「ホームページ倫理審査」を2017年度より専門医委員会、認定医委員会と合同で開始し、今年で5年目を迎えました(学会HP「ホームページ倫理審査について」に掲載)。今年も本事業を継続して行いますので、対象となる会員の皆さまはご協力をお願いいたします。

2018年6月に「医業若しくは歯科医業又は病院若しくは診療所に関する広告等に関する指針(医療広告ガイドライン)等について」が施行されたことを受けて審査基準の見直しおよび明確化をはかり、「日本矯正歯科学会ホームページ倫理審査指針」として昨年3月に策定・公開しましたが、内容をアップデートして「2021年度ホームページ倫理審査指針」として学会HPに掲載しております。その主なものは以下の3つです。

- 1) いわゆる広告可能事項以外の内容をホームページに記載する場合、限定解除要件の一つである「矯正歯科治療に伴う一般的なリスクや副作用」についての記載が必要です(学会HPに記載例を掲載)。
- 2) 治療前後の写真を掲載する場合、上記の限定解除要件を満たした上で個々の症例の写真に必要な事項を記載する必要があります。
- 3) 本学会の専門医の名称が臨床指導医に変更になったことから、ホームページ上の記載も「日本矯正歯科学会臨床指導医」あるいは「日本矯正歯科学会臨床指導医(旧専門医)」と表記する必要があります。なお過去4年間のホームページ倫理審査におい

『統一矯正歯科専門医』の進捗状況



された会員のホームページの中に明らかな違反事項が認められるものが確認されており、これらのうち悪質な修正と判定された場合は、今年度より数年にわたり毎年ホームページ倫理審査の対象とすることになりました。会員の皆様にはこのような審査対象とならないように、またご自身のホームページがガイドラインに沿ったものとするべく確認および修正をしていただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

臨床・疫学研究倫理審査委員会

委員長 山田 一尋

人を対象とする医学系研究は、研究対象者の尊厳および人権を守るために、研究機関の許可を受けた研究計画書に基づき研究を適正に実施することが求められています(参照：人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針、令和3年6月30日施行)。今まで数年にわたり研究倫理審査の必要性をお伝えしてきたことから、2020年に開催された第79回日本矯正歯科学会学術大会から、人を対象とした研究の学術展示(除：症例報告)の抄録提出時に研究倫理審査の承認を必須とさせていただいております。

研究開始にあたっては、大学の倫理審査委員会で審査を受けてください。また、大学で倫理審査を受けられない会員の方は、日本矯正歯科学会の臨床・疫学研究倫理審査委員会に申請することをお勧めいたします。

日本矯正歯科学会臨床・疫学研究倫理審査委員会への申請にあたり、2020年9月より**実施責任者と研究分担者の研究倫理に関する講習会の受講が義務づけられています**。日本学術振興会研究倫理 e ラーニングの研究者向けコースを受講してください。https://elcore.jsps.go.jp/top.aspx のページで、個人として新規登録後ログインし、コース学習を選択して、「事例で「学ぶ/考える」研究倫理—誠実な科学者の心得—」を受講してください。「(大学院生向け)事例で「学ぶ/考える」研究倫理—誠実な科学者の心得—」ではありませんので、ご注意ください。受講料は無料で、受講終了後に修了証書が発行されます。申請時に**実施責任者と研究分担者の修了証書の PDF ファイルの提出が必須**となります。

日本矯正歯科学会 HP の臨床・疫学研究倫理審査委員会に審査に必要な書類のファイルと記入例が提示されています。記入例を参考に提出書類を作成してください。承認まで数か月を要します。期間に余裕をもって書類をご提出ください。

日本歯科矯正器材協議会より

平素より日本歯科矯正器材協議会の活動にご理解ご協力いただき、誠にありがとうございます。

昨年の第79回大会は、第9回国際矯正歯科会議世界大会 (IOC) および第12回アジア太平洋矯正歯科会議 (APOC) との併催となりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により横浜で開催することができず、初めての WEB 開催となりました。商社展示も急遽同様に初めての WEB 展示となり、何とか43社が出展いたしました。閲覧いただきました先生方には、改めて御礼申し上げます。

さて、今年も新型コロナウイルス感染拡大の影響により、各地区学会が WEB 開催となり、今回の第80回大会は、パシフィック横浜会場と WEB を併用するハイブリッド開催となりました。ワクチン接種が進んでいるとはいえ、現在、リアルでの展示会・セミナーはほとんど行われず、

移動の自粛により各社営業の先生方へのご訪問もままならず、大変ご不便をおかけしていることと存じます。

つきましては、今回の大会におきましては、有用な情報をご提供できる場として展示は何とか実地での開催を実施できるよう、新しい様式に対応すべくガイドラインを整備するなど準備を進めている次第です。実地開催実施の暁には、ぜひ多くの先生方にご来場いただけますよう出展会員一同心よりお待ち申し上げます。

状況がどのように変わりましたが、私どもは今後とも先生方に安全で安心してご使用いただける器材のご提供を心掛け、矯正歯科業界の発展に貢献して参る所存でございます。引き続きご支援ご協力を賜りますよう何とぞよろしくお願い申し上げます。

日本歯科矯正器材協議会 会長 大石邦雄
役員一同

(この Information Letter の原稿は 2021 年 6 月 30 日の時点で作成されたものです)